

バンクーバー新報

Vancouver Shinpo Japanese Weekly Newspaper

購読料：1年(51部) / \$94.00 半年 / \$66.80 1部 / \$1.50 GST NO. R105484992
(\$89.52+GST \$4.48) (\$63.62 + GST \$3.18) (GST込み)

August 3, 2017

Address: 3735 Renfrew Street,
Vancouver, B.C., V5M 3L7
Tel: 604-431-6848 Fax: 604-431-6892
Web Site: http://www.v-shinpo.com
E-mail: joh@vshinpo.com
info@vshinpo.com
Publisher: S. Tsuda
Canadian Publications Mail
Product Agreement #40009397

The Japanese Weekly Newspaper Published Every Thursday

無断転載を禁じます。

今週の紙面

カナダ「トルドー首相、バンクーバー市長と会談」…………… 2、4
 日本「溶融核燃料、横から回収 気中工法で 福島第1原発」…………… 7
 国際「南シナ海問題で対中配慮 ASEAN外相声明案」…………… 8
 新報インタビュー「チャールズ・ヤン氏「カナダが自分のホーム」…………… 10
 メーブル「日系祭り 今年9月2日(土)、9月3日(日)…………… 14、15
 家族で楽しむ日本の祭り」……………

フラグループ ワイレレワイワイ

キツラノショーボートでの公演10回記念ステージ



写真上：ヨシさんがフラと出会うきっかけを作った滝口潤子さんの日本チームも参加

写真右下：フラの活動に奉仕するヨシさん(左)と創始メンバーの幸さん

写真左下：チーム同士が切磋琢磨し、充実したフラの祭典に育った

7月28日夜、青空と青い海をバックに鮮やかな衣装の女性たちがフラを舞い、バンクーバーのキツラノショーボートを訪れた観客約500人はうっとりとして酔いしれた。日本からの姉妹グループも出演。中盤では観客を招き、老若男女50人以上がステージに上がり、指導に合わせてス

テップや舞いにチャレンジした。皆の喜ぶ姿が会をさらに盛り上げ、最後は客席と一体になり、恒例のオリジナルソング『アロハマハロ』の大合唱で幕を閉じた。

(取材 平野 香利 / 写真 平野 直樹) 詳細はパート2、V-2ページ

クラーク前州首相が辞職

BC州 「党を一新する時期」

ブリティッシュ・コロンビア州クリス・クラーク前州首相が7月28日、州議会議員を辞職すると発表した。8月4日が最後となる。自由党党首だけでなく議員の辞職の決意に党内で驚きを持って受け取られた。クラーク党首は7月31日、バンクーバー市で記者会見を開き、「党首として引き際が大事」と語った。「いつまでも党にしがみついていたはいけない。党のために自分が離れることがいいと思うし、党を一新する時期だ」と語った。クラーク前州首相は、突然で驚いたと語った。正式な党首が決まるまで、コールドマン副党首が暫定党首として党を率いる。

自由党は今年5月9日の州議会議員選挙で43議席と最多議席数を獲得したが、過半数に1議席足りず少数派政権での出発となった。その後、41議席と躍進した第2党の新民主党(NDP)と、3議席に増やしたグリーン党が公式連立を組むことなく、政策協力することで合意。6月に議会が再開すると自由党政権への不信任が決議された。これを受け、クラーク前州首相は野党党首として留まると発表していた。

クラーク前州首相は解散再選挙を提案したことを記者会見で明かした。しかし、ギッチョ副総督はNDPのグリーン党協力による政権を承認。これで16年間続いた自由党政権が終了した。この時、クラーク前州首相は野党党首として留まると発表していた。

(編集部) 2ページに関連記事

日本の花火、夜空を飾る ホンダ・セレブレーション・オブ・ライト



ホンダ・セレブレーション・オブ・ライト、今年のスタートをきった日本代表による打ち上げ花火(写真 斉藤 光一)

ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーの夏の風物詩である花火大会、ホンダ・セレブレーション・オブ・ライトの初日が7月29日、同市中心部のイングリッシュ・ベイで開催された。毎年3カ国が参加して、その技を競うこの大会、今年は日本、イギリス、そしてカナダが選ばれている。この日、日本代表として打ち上げを担当したのは、群馬県桐生市の灯屋煙火店(Akariya Fireworks)。

花火はイングリッシュ・ベイ沖に停泊したはしけから打ち上げられるが、灯屋煙火店と、大会中の打ち上げ作業全体を管理するケベック州のシリウス・パイロテクニクスのスタッフら合計16人が、この日のために3日間かけて準備を進めてきた。

この花火大会への参加は2014年に次いで2回目となる灯屋煙火店。今回のテーマは「日出

ずる国(Land of Rising Sun)」。かつての將軍を頂点とした武士社会から、明治維新を経て近代国家日本が成り立つ中で継承されてきた文化、芸術、そして国民性に賛辞を贈る意味が込められていると、灯屋煙火店では説明している。

バンクーバー市警察の見積もりでは、メイン会場となったイングリッシュ・ベイに繰り出した観客は25万人ほど。これだけの人が出ながら、野外でのアルコール飲料やたばこといった小さな違反以外は、際立ったトラブルも起きなかった。また警察は、同大会が年々家族向けのイベントとして市民の間に定着してきており、警備体制の改善に努めていると話していた。

同花火大会は、2日にイギリス代表のジュビリー・ファイヤーワークスが花火を打ち上げ、5日にはカナダ代表のケベック州のロイヤル・ポリテクニーによる打ち上げが予定されている。

(編集部)